

第5学年 家庭科学習指導案

日 時 7月11日(土) 2校時

対 象 5年2組 31名

授業者 葛西 信乃

1 題材名 作った糸でどうする!!～衣生活と消費・環境について考える～(開隆堂)

2 校内研究との関わり

本題材では、身近な材料の特徴を生かし、自ら材料を選択して作品を計画・製作する活動を通して、材料の再利用するよさや環境との関わりについて考え、生活をよりよくしようと工夫する態度を育てることを目指す。特に、材料の特徴を捉え、その特徴を生かす理由を明確にしなが工夫する力や、自分の生活と関連付けて考える力を育てたい。

本時では、「自律に向かう学び」のうち、以下の段階を位置付ける。

㊦ 子どもが選択する場面が生まれる。

㊧ 児童と教師が学びの進め方を調整する。

また、言葉や布の種類など多様な気付きや考えを尊重することで、互いの見方・考え方のよさに気付けるように学習を進め課題解決に向けて主体的に取り組むことができるようにする。さらに多様な表現を認め合い、考えを比較・共有しながら考えを広げることを通して、

② 認知・思考の多様性

を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

(1) 目標

身近な衣服や布を観察・比較する活動を通して、衣服に使われている繊維には石油由来の物も多く使われていることを知り、繊維が再利用されている布もあることに気付き、生活や環境との関わりについて考えたことをまとめることができる。

学習活動	・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □校内研究との関わり
1 布は何からできているのか考える。 ○手縫い練習布やフェルトから布の材料を予想する。 ・糸だと思う。 ・糸ではなく毛だと思う。 ・やっぱり糸なんだと思う。 ・すべての布を見たわけじゃないから分からない。	・これまでの学習で使用した2種類の布を活用することによって、確かめてみたいという学習意欲につなげる。 ・どのような、糸や繊維を知っているかを既有経験から、布の材料への関心を高められるようにする。 ・ほつれた布を提示し、予想を聞き合うことで、すべての布は同じようにできているのだろうかという問いを生み出し、練習布とフェルトを比較する活動につなげる。
2 練習布とフェルトを比較する。 ○手縫い練習布やフェルトを観察し、布のつくりや特徴の違いを見つける。 ・練習布は薄くて透けて見える。糸で格子のようになっている。 ・フェルトは糸が見えない。引っ張ると綿みたいなものがとれた。 ・糸だけで作られているわけではなさそうだ。 ・2つ以外の布は、どのようにできているんだろう。調べてみたいなあ。	□これまで使用してきた練習布やフェルトを活用し予想を確かめるために、見たり、触ったり、透かしたりしながら、自分で観察方法を考えながら比較できるようにする。[自律ウ] ・出てきた気付きを全体で共有し、なぜ違うのだろうかという問いをもてるようにすることで、布の材料や作り方への関心を高める。 ・比較を通して布を見る視点を見だし、その視点を基に次の布調べに取り組めるよう価値付ける。 ・フェルトは繊維を重ねて熱や圧力で固めて作られていることを知らせ、布には様々な作り方があることに気付かせたい。
布は何からできているのだろうか。	

- 3 品質表示タグを調べ、布の材料を確かめる。
- 自分が持ってきた服や布製品の品質表示タグを見る。
- ・ポリエステルが入っている。
 - ・綿と混じっている。
 - ・綿・麻・羊毛・絹（自然繊維）
 - ・ポリエステル・ナイロン・レーヨン
 - ・ポリウレタン
 - ・リサイクルポリエステル
 - ・混紡（科学繊維）
- 4 気付いたことを全体で共有する。
- 全体で交流し、気付いたことをまとめる。
- ・ペットボトルならリサイクルできる。
 - ・プラスチック製品かもしれない。
 - ・資源を大切にすることにつながりそう。
 - ・ごみ削減にも繋がり、資源を大切にできる。
 - ・リサイクルにつながる。
 - ・環境によいと思う。
- 5 まとめを共有する。
- 発言をつなぎながらまとめる。
- 服や布は、糸や繊維が集まってできており、様々な材料から作られていることが分かった。また、使い終わったものからも新しい材料を作り、生活に生かすことができる。
- 6 学習を振り返る。
- 環境という言葉を入れて振り返りを書く。
- ・環境を守るために、リサイクルは大切だと思った。自分のできることから始めたい。
 - ・布には様々な材料が使われていることやリサイクルポリエステルは、環境によい材料だと思った。環境のために資源を大切にしたい。
- 7 次時への見通しをもつ。
- リサイクルポリエステルの糸に触れ、次時の学習活動につなぐ。

- ・布の種類や材料を確かめるために、品質表示タグに着目し、見ただけでは分からない布の種類や材料について必要な情報を見付けて調べられるようにする。
- ☆拡大した品質表示タグを掲示することによって視覚的に捉えることができるように支援する。
- ・品質表示タグ調べで見付けた布の種類や材料を持ち寄って共有し、どのような種類に分けられそうかを問いかけることで共通点や相違点を見いだしながら、糸や繊維の材料を整理できるようにする。
 - ・調べた結果を交流し、それぞれの布の素材の特徴や活用の仕方に着目することで、素材が使われる理由やリサイクル素材が活用される背景にも気付かせたい。
 - ・児童の発言を板書しながら可視化する。
- 多様な気付きや考えを尊重しながら共有することで互いの見方・考え方のよさに気付けるように学習を進める。〔多様性②〕
- ・自分の考えを書くことができるようなワークシートにしたり声掛けをしたりして、環境に結びつけながら書くことができるように促す。
 - ・考えを共有しながら、自分の経験や観察した事実を根拠として考えを深めることができるよう支援していく。
- ◎衣服や布について観察・比較したことを基に、衣服が様々な材料からできていることや材料が再利用されていることに気付き生活や環境との関わりについて考え、表現している。
- 【思考・判断・表現】（発言・記述）
- ・振り返りの視点として、資源を繰り返し使うことには、どのようなよさがあるのだろうと問いかけ環境との関わりについて考えられるようにする。
 - ・リサイクルポリエステルはペットボトルから作られた物であることを知り、限りある資源を有効に活用することの大切さに気付かせたい。
- ・次時の活動への見通しをもてるようにする。